

■青少年体験活動奨励制度推進フォーラム

2014年12月21日(日)に青少年体験活動奨励制度推進フォーラムが開催されました。

様々な地域や様々な活動フィールドの方々にお集まりいただき、青少年の体験活動の現在や必要性、青少年体験活動奨励制度の課題と展望について活発な議論がなされました。改めて体験活動への関心の高さを認識するとともに、青少年体験活動奨励制度への期待の高さを感じる会となりました。



フォーラムの様子

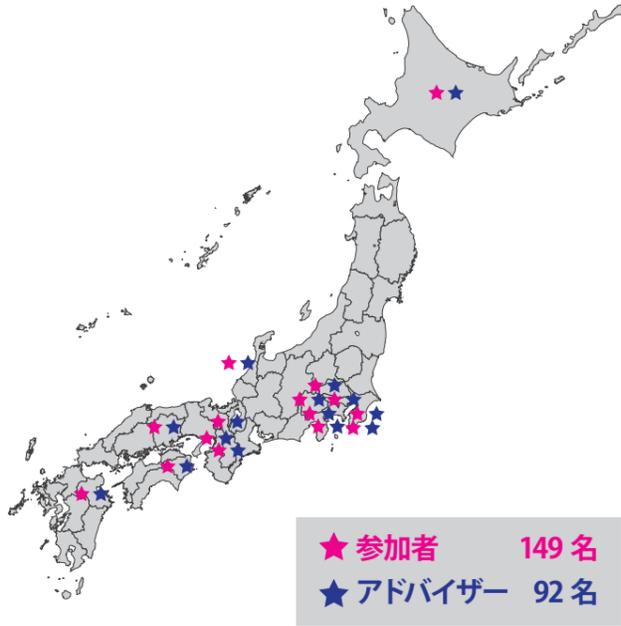
【フォーラム内容】

- ・ご挨拶
- ・体験活動を取り巻く状況と制度の紹介
- ・体験活動の現状調査の報告
- ・青少年期の体験活動を振り返って
- ・活動報告
- ・体験活動の新しい仕組みの提案
- ・グループディスカッション
「20歳の青少年の体験活動を促すためには」



ディスカッションでは様々な意見が交わされた

■青少年体験活動奨励制度 参加者状況



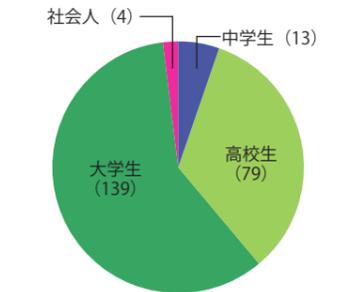
●H26年度青少年参加者数(新規)

(修了者数/参加者数)
149名/235名
(H25年度からの総数 376名)

●H26年度アドバイザー数(新規)

92名
(H25年度からの総数 140名)

●H26年度青少年参加者属性(人)



●H26年度の活動内容事例

自然体験	世界農業遺産のノルディックウォーク/自然のスケートリンクづくり/白鳥観察を通して、自然との共存・共栄を考える
奉仕体験	地域MAPを作成し観光客の案内ボランティア/地域の防犯ボランティア/子どもの学習教材を作成し、学校へ寄付
教養体験	英語検定2級を目指した英語学習/着物の着付けの習得/稲作の生産、販売体験を通して産業を学ぶ
運動体験	イベントでのダンス発表を目指した演目練習/マラソン大会での完走に向けたトレーニング/テニスのストロークの技術向上



青少年体験活動奨励制度 HP ▶▶▶ <http://www.u-gakugei.ac.jp/~codomo/jya/index.html>
Facebook ▶▶▶ <https://www.facebook.com/seisyonen>



教育支援人材認証協会
Japan Association for Certifying and Training Educational Specialists

発行：一般社団法人教育支援人材認証協会
発行日：平成27年3月
連絡先：東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学内
(TEL) 042-329-7605 (Email) info@jactes.or.jp
協会 Facebook：
<http://www.facebook.com/jactes>



平成26年度 文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」
青少年体験活動奨励制度

2015年3月発行



CONTENTS ■ 青少年体験活動奨励制度推進表彰式 p1 ● BRUNCH p3
■ 参加者の声(参加者アンケートより) p1 ■ 制度のご紹介 p4
● AWARDS Perspective(制度の仕組み) p2 ■ アワード参加者状況 p4
● AWARDS Report(参加者の活動報告) p3

青少年体験活動奨励制度推進表彰式



表彰式は本協会理事、青少年体験活動奨励制度委員会の松田恵示委員長の挨拶から始まりました。本制度に参加している青少年と、青少年の活動をサポートいただいたアドバイザー、関係者の方々への謝辞に始まり、チャレンジすること、体験することの大切さについて話がありました。

次に、今年度の参加者を代表して2名の青少年から、体験活動の実践報告がありました。2名とも、魅力的な体験活動の内容を一生懸命に発表してくれました。

今年度の参加状況は、制度への参加者235名中、修了者(予定者含む)149名となっており、修了の大変さと同時にそのことが修了者の達成感の高さにもつながり、制度自体の価値にもつながっています。

2015年3月16日(月)に青少年体験活動奨励制度の表彰式が文部科学省にて行われました。

当日は体験活動を修了した青少年の参加者が、文部科学省スポーツ・青少年局長から表彰を受けました。表彰式には、修了者及び修了予定者に加え、アドバイザーや関係者を含め、約90名の参加がありました。また、修了者・アドバイザーに加え、本制度にご理解いただいている企業や学校関係者の方々にもご参列いただきました。

本制度では、日本全体での人材育成も視野にいれ、地域・学校との連携においては青少年の主体的な学びへの意欲の向上、企業との連携においては新入社員のリクルーティング、研修との連携にまで結びついていく活動を目指しております。表彰式においても企業や学校関係者の方々にご参加いただけたことで、今後の制度の拡充に向けて展望がもてることとなりました。

次に、文部科学省スポーツ・青少年局長の久保公人局長より、会場の全修了者への修了証の授与と、修了者やアドバイザー、関係者への労いと修了者への今後の活躍に期待しているという激励の言葉をいただきました。修了証の授与とご挨拶に引き続き、文部科学省スポーツ・青少年局長と青少年体験活動奨励制度委員長、修了者での記念写真撮影がありました。

その後は、交流会を通して、青少年やアドバイザー、関係者で活発な意見交換がみられました。そして交流会の最後には、青少年体験活動奨励制度委員会の鉄矢副委員長より、青少年への激励の言葉とともに閉会のご挨拶がありました。

参加者の声(参加者アンケートより)

平成26年度参加者の方々に本制度に参加しての感想をアンケート形式で記入いただきました。

体験活動をしていて大変だった、難しかったこととして、継続して体験活動を行うことという回答や、体験活動の記録をとることという回答が多く見られました。一方で、継続して活動を行ったので達成感があったという回答や、記録を取りながら活動を行ったため、活動が自身のためになったという回答が多く見られたため、体験活動を継続し、きちんと記録をとることの難しさが、一方で本制度の魅力にもつながっていると見受けられました。

領域をわけてみると、自然体験活動、ボランティア体験活動の2領域は活動の場の設定や日程調整が難しかったという回答や、運動が苦手なため、運動体験に不安があったが、活動をしてみると楽しく継続することがで

きたという回答など、今後の制度の構築の参考となる回答が多数みられました。また、活動の記録については、負担を感じる青少年もいる一方、より精度の高い記録を求める回答があるなど、この部分でも今後の制度の構築の参考となる回答が多数みられました。

さらに、本制度をきっかけに始めた活動を今後も続けていきたい、本制度での体験活動は自身の将来に役立つ、自身の周りの人たちにも本制度を勧めたいという回答が多かったことは、本制度が参加者にとって大きな意味を持ち、今後の成長へ良い影響が表れることを期待できます。

以上のように、今回の参加者へのアンケートから、今後の制度の発展に向けて、意味のある回答が得られました。



H26年度の参加者数

今年度修了者数/参加者数

149/235

アドバイザー人数

92人



AWARDS Perspective

制度の仕組み

制度のご紹介

青少年の体験活動を後押しするために文部科学省の委託事業として平成25年度から始まった制度です。14歳から25歳の青少年を対象に、「自然体験、運動体験、ボランティア体験、教養体験」という4領域の体験活動について、総合的に一定期間継続することで、その達成を記念する修了証が文部科学省から授与されます。

14歳から25歳の青少年が対象

4領域の体験活動を総合的に実施

活動の実績を文部科学省が表彰

※海外留学や海外での就職への活用も視野に入れ、国際的な体験活動の評価制度である英国エディンバラ国際アワードの同時取得が可能です。

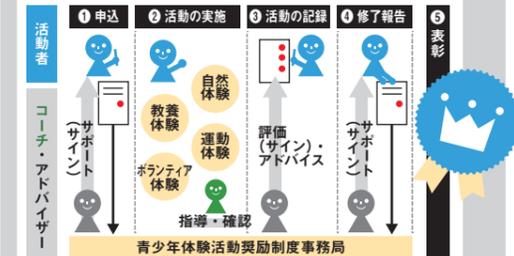
活動概要

青少年が自ら計画を立て、アドバイザーと相談しながら継続的に体験活動を行う制度です。

活動のポイント

- ①自分で目標と計画を立て、自主的に活動すること
- ②アドバイザー（＝活動をサポート、アドバイスする大人）に相談しながら活動を行うこと
※申請時の提出物、活動中の記録にはアドバイザーのサインが必須です
- ③各領域の活動はコーチ（＝活動を確認・指導する大人）に確認してもらいながら行うこと
- ④運動体験・ボランティア体験・教養体験の領域は、継続的に活動すること
- ⑤活動を記録しながら実施すること

活動の流れ



4領域の詳細

<p>自然体験</p> <p>【概要】普段の生活とは異なる自然豊かな場所で、宿泊を伴って自然と楽しく触れ合ったり、自然を探索したりすることを目的とする活動</p> <p>【必要時間】1泊2日以上（1日6時間以上の活動） ※事前の企画や準備、練習をきちんと行う必要があります</p> <p>【活動例】野外活動、自然・環境学習活動、農業・漁業体験等</p>	<p>運動体験</p> <p>【概要】スポーツやトレーニング等、心肺的・肉体的負荷があり、健康促進、運動機能向上を目的とする活動</p> <p>【必要時間】1週間に1時間以上の頻度で3ヶ月～6ヶ月間継続</p> <p>【活動例】マラソン大会完走を目指すランニング 脂肪燃焼を目指すウォーキング等</p>	<p>教養体験</p> <p>【概要】知識や技能を高める活動や、教養や趣味を深める活動等、自己研鑽を目的とする活動</p> <p>【必要時間】1週間に1時間以上の頻度で3ヶ月～6ヶ月間継続</p> <p>【活動例】資格取得、検定受験、音楽活動、日本文化の会得、技術向上等</p>	<p>ボランティア体験</p> <p>【概要】他者への奉仕やサポートを目的とする活動</p> <p>【必要時間】1週間に1時間以上の頻度で3ヶ月～6ヶ月間継続</p> <p>【活動例】教育支援、地域支援、高齢者支援、子育て支援等</p>
---	--	--	---

※運動、教養、ボランティアの3領域中2領域は3ヶ月間、1領域は6ヶ月間以上の活動が必要になります。



参加者の方から、

- 受賞時の活動内容
- 活動を通じて感じたことを表彰式で発表していただきました。



ReportNo.0001

修了者の活動報告



修了者：三澤絢子さん



AWARDS Report

青少年体験活動奨励制度に参加したのは、継続力と行動力がない自分自身を変えるきっかけにしたいと思ったからです。

運動体験では、「足首（靭帯）の怪我をしない身体づくり」を目標に、有酸素運動と筋力トレーニングを行いました。継続的に続けることで、3ヶ月後には捻挫の回数も減り、体脂肪率も減少しました。

教養体験では、「日商簿記検定の合格」を目標に、朝の勉強会で問題集を中心に勉強を行いました。継続するうちに苦手な簿記が楽しく感じられるようになりました。6月の検定に向けて勉強を継続しています。

ボランティア体験では、「サッカーの基本スキルをわかりやすく教える」を目標に、少年少女サッカーチームの指導補助を行いました。無邪気な子どもたちとのコミュニケーションの壁にぶつかりましたが、諦めずに工夫を重ねて接していると次第に子どもたちと心が1つになったことを感じられるようになりました。

自然体験では、「屋外アイススケートリンクづくり」を行いました。当日は吹雪だったこともあり、断続的に作業をス

トプして雪かきをするなど、自然相手の計算が立たない大変な作業であると感じましたが、無事に屋外アイススケートリンクづくりを完成させ、大学のアイスホッケー部や地域の子どもたちに解放することで有意義に活用されており、とても嬉しく感じました。

体験活動を振り返って、特に重要に感じたのが、目標を持ち、記録を取り、振り返ることの大切さです。自分自身がどれだけ成長したか、なぜ目標を達成できたのか、記録をとることで明確になりました。この活動をはじめ、記録をとることの重要性を感じ、毎日日記を書くようになりました。また、継続力が身についたとも感じました。目標を達成するためには1日だけ頑張ればよいというわけではなく、継続して行うからこそ、目標に近づけます。目標を達成するためのプロセスが重要であると感じました。そして、自ら定めた目標に向かって、自ら行動し、そして自ら振り返ることは、これから社会に出ていく私たちにとって、とても重要なことだと思います。この体験活動をぜひ、多くの学生に体験してほしいと思います。



Report No.0002

修了者の活動報告



修了者：武井秀弥さん

青少年体験活動奨励制度に参加したのは、大学に入ってから勉強以外で継続して目標に向け活動することが減少する中で、様々なことにチャレンジしたいと思ったからです。

運動体験では、「ハーフマラソンを完走」することを目標に、ジョギング、補強運動、ストレッチ、ハーフマラソン以外のレースへの出場を行いました。結果、そうじゃ吉備路マラソンのハーフマラソン(21.0975 km)に出場し、目標としていたタイムよりも早く完走することができました。

ボランティア体験では、「花育活動、キャンパス清掃」を目標に、大学内の庭園や門の周りに置くための花を育てたり、大学内周辺の清掃活動を行ったりしました。花育は、庭園の枯れた花の種取りから始まり、肥料・堆肥・苗・種・鉢を揃え毎週活動をしました。苗や種はパンジー・葉牡丹・ゴールドクレスト・シクラメン・カモミールなどがあり、苗は鉢に何種類か寄せて植える寄せ植えをし、大学内の雰囲気さをさらに良くすることが出来ました。

キャンパス清掃では、花育活動と並行して、大学周辺の地域の吸い殻や缶などのゴミを拾ったり、大学内の落ち葉拾いを行いました。

教養体験では、「食」を通じて生活そのものを提案し、適切な指導や助言を行う食生活全般のスペシャリストである「食生活アドバイザーの資格取得」を目標に、検定対策のテキストの内容をノートにまとめ、テキストにある復習問題や確認問題を解いていきました。結果は合格ラインに4点足りず資格取得にはなりませんでしたが、合格ラインから惜しかったこともあり次回は、1つ上の級の取得にチャレンジする予定です。

自然体験では、「小豆島のロッジに宿泊し、海・山の自然に触れる」ことを目標に、仲間とともに、みかん狩り・釣り・穫った食材の調理・寒霞溪で山登り・銚子溪、エンジェルロードの散策をしました。様々な場所で自然をしっかりと体験することが出来ました。

体験活動を振り返って、今回の体験活動は、アドバイザーと一緒に活動をした仲間と一緒にだったから継続できたように感じます。また、これらの体験活動の1つ1つは、スポーツ選手を栄養面で支えていくという私自身の夢のためにとても意味のある活動であったと感じました。だからこそ、私の後輩たちにも、青少年体験活動奨励制度のことを勧めていきたいと思っています。

皆様の活動をご報告ください

今後も全国の参加者の皆様の活動をご紹介します。皆様からの活動レポートを事務局までお送りください。

- 制度に参加して良かったこと、自分の活動に活かされたこと
- 現在の活動内容/○今後の抱負

⇒FAX:042-329-7605
⇒Email:info@jactes.or.jp



BRUNCH

北海道ランチ【札幌大学】

住所：北海道札幌市豊平区西岡三条7丁目3番1号
電話：011-852-1181

関西ランチ【奈良教育大学】

住所：奈良市高畑町
電話：0742-27-9105

東日本ランチ

【一般社団法人教育支援人材認証会本部事務局】

住所：東京都小金井市貫井北町4-1-1(東京学芸大学内)
電話：042-329-7605

中国ランチ【中国学園大学】

住所：岡山県岡山市北区庭瀬83番地
電話：086-293-2508